

# 図書館だより

74

## 西東京市図書館計画を策定しました。

〔平成31(2019)年度～2023年度〕

図書館では平成30年度に図書館計画策定懇談会を10回開催して検討を重ね、西東京市図書館計画〔平成31(2019)年度～2023年度〕(以下、図書館計画)を策定しました。

西東京市図書館基本計画・展望計画(平成21年度～平成30年度)のもとで、世代別、対象別の各サービスをはじめ、開館時間の延長、予約棚や自動貸出機などICタグを活用した図書館管理システムの導入など、利用しやすい図書館づくりを進めてきました。



今回の図書館計画策定にあたっては、資料やサービス、職員配置、施設配置などについて地図やアンケートをもとに現状の見直しを行いました。また、課題として、蔵書の収容能力不足や中央図書館の老朽化などがあげられています。

中央

新しい図書館計画では、「市民とともに学び、考え、成長する図書館をめざします」という基本理念を継承し、6つの基本方針とそれに沿った施策の方向性と具体的な取組み事業を掲げ、推進していきます。



★声の広報をお届けしています。

お知り合いの方でご希望の方がいらっしゃいましたら、谷戸図書館(Tel.042-421-4545)へお問合せを。

# 基本方針と施策の方向性



## 基本方針 1 資料の収集と保存の充実

- (1) 将来の図書館利用を見据えた資料を収集し保存します
- (2) 様々な形態の資料についての整備を進めます

## 基本方針 2 すべての市民に活用される ために

- (1) 誰もが学べる環境の整備を進めます
- (2) 市民の生活課題、地域課題に向けた取組みを進めます
- (3) 資料と情報の積極的な提供と活用を図ります
- (4) 効果的な広報に取組みます

## 基本方針 3 西東京市の文化・歴史を 次世代に継承する

- (1) 西東京市に関する資料と情報を収集し保存します
- (2) 西東京市に関する資料と情報を活用し発信します

## 基本方針 4 未来を担う子どもの 読書活動の支援

- (1) いつでもどこでも子どもが本に出会える場づくりを進めます
- (2) 子どもの成長に沿った取組みを進めます
- (3) 学校との連携・協力・支援を進めます

## 基本方針 5 地域、行政と連携した サービスの向上

- (1) 市民、関係団体とのネットワークづくりを進めます
- (2) 他自治体の図書館や市の他部局との連携を図ります
- (3) ボランティアの拡大を推進します

## 基本方針 6 効率的・効果的な運営体制 の構築

- (1) 職員の専門性の向上を目指します
- (2) 図書館ネットワークの強化を図ります
- (3) 利便性と効率性の向上に向け取組みます

この図書館計画に基づき今年度は、地域・行政資料の電子化の推進と公開に向けた取組みをはじめとする、17の取組事業を中心に図書館運営を進めていきます。



# 図書館広報物のご案内

本紙、図書館だよりの他に図書館で独自に作成している広報物をご紹介します。

実物をご覧になりたい方は、お近くの図書館カウンターへお尋ねください。



## ドキドキわくわく あたらしい本

児童サービス担当司書が、新しく出版された本を2ヶ月に1度紹介しています。対象を、えほん・低学年・中学年・高学年以上にわけ、それぞれ2冊ずつ掲載しています。各図書館で配布しているほか、図書館ホームページからご覧いただけます。

## ちらっと

2ヶ月に1度発行している図書館情報紙です。時事的な特集や図書館のコーナー紹介、図書館主催講演会・講座の報告など特集内容は多岐にわたります。また、残念ながら今まで一度も借りられていない、でも読んでもらいたい!本の連載や、FM西東京で紹介した本についても掲載しています。

※FM西東京…西東京市のスタジオから放送しているラジオ局です。図書館の放送は、毎週火曜日の12時5分～12時10分です。



いろんな本の情報が  
たくさんあっていいよ!  
ぜひ読んでみてね!



## キャッチ CATCH

年に3回発行しているYA向けの情報誌です。YA世代の共同編集者と図書館スタッフが作成しています。共同編集者による本の特集ページや、読者が投稿してくれたYA!YA!(ヤイヤイ)ペーパー掲載ページ、おすすめの新刊情報など、YAの皆さんの心をキャッチする、わくわくするページ作りを目指しています。

※YA(ヤングアダルトの略)…主に13～18歳の皆さんを呼ぶ言葉です。

# にんにんに西東京

## 第23回 「鷹場」



西東京市図書館キャラクター  
西都右京くん

鷹狩り(鷹野・放鷹)は、狩猟民族の間で始まり、飼いや慣らした鷹を使って鳥獣を捕らえる方法で、古代に大陸から伝わり、支配者の特権的遊猟として朝廷、中央貴族によって行われ、中世以降、武家の間に広がりました。

寛永5年(1628)、幕府は「江戸近郊鷹場法度」を制定し江戸からおよそ20kmを将軍家鷹場(御拳場)としました。

寛永10年(1633)、御拳場周辺40kmに紀伊・水戸両家と共に尾張徳川家は鷹場を拝領しました。北は荒川、南は多摩川、西は現在の瑞穂町付近までの広大な範囲でした。その後、元禄6年(1693)、五代将軍綱吉の生類憐れみ政策により鷹場は一時返納され、享保元年(1716)、八代将軍吉宗により再編されました。

西東京市は、尾張家鷹場に位置し、「延宝6年(1678)御鷹場絵図」には、御拳場の外側156か村の中で、「田無・保谷・木樽分六か村」として描かれています。

江戸戸山の尾張藩屋敷内御鷹方役所は、鷹匠、鷹場吟味役・鳥見(田無村、下保谷村陣

屋あり)・鷹目付等の役人を配置し支配しました。田無村の有力農民下田孫右衛門が御鷹場御預御案内に任じられ周辺26か村を預かりました。

尾州鷹場の周辺には境界を示す83本の石杭が建てられました。宝暦3年(1753)「御定杭書上帳」

には、下田孫右衛門預かり村として上保谷村に9本の境杭がありました。そのうちの5本が、現在、市指定文化財第32号として残されています。



石製尾張藩鷹場標杭(保谷町)

鷹場法度により村々は、殺生の厳禁、鳥の棲息に影響のある案山子や水車、建築、祭礼の鳴物等日常生活に多くの制約を受けました。願書により許可を受け鑑札を戴くと共に禁

止行為は厳罰に処されました。また、藩主の鷹野に際する負担は重く、寛永21年(1644)の例では、51か村1166人の人足動員が記録されています。

昨年、市内の旧家から尾張藩足輕の具足2領が発見されました。当地の者に預けておくことから「お貸し具足」とも呼ばれました。

慶応3年(1867)8月、混乱する幕末期に鷹場は廃止されました。

鷹匠とは鷹の飼育や訓練を行い、実際の鷹狩りに随行する鷹の取扱責任者です。西東京市には、かつて、NHKの大河ドラマで家康に扮した鷹匠と鷹がいました。現代の鷹匠として新聞等でも紹介された富田俊夫さんです。

富田さんは下町、日暮生まれの江戸っ子。子どもの頃から無類の動物好き。15歳から勇壮な技に魅せられて鷹匠の弟子になり8年修行しました。その後、まだ鷹狩りが似合う場所だった旧田無市に移り鷹匠への道を歩き出しました。『東興通信』平成元年(1989)7月19日号によると、当時、イヌワシ、クマタカ、オオタカ、ハヤブサの4種類15羽を飼育。秋から春にかけて幼鳥を慣らし最低2ヶ月の訓練。鷹狩りの期間は11月から2月、平地の藪を選ぶとのこと。「でも、鷹匠じゃ食べていけないよ、もう「將軍家おかかえ」なんてないもの」という言葉に時勢の変化と鳥たちへの愛情が伺えました。

# イベント報告

西東京市図書館縁講演会

## 「武蔵野の雑木林再生～雑木林若返り作業18年の記録」

平成31年2月23日 田無公民館 第2学習室

講師 池田 干城さん(西東京市在住・西原自然公園を育成する会代表)



講演と同タイトルの記録集



雑木林とは…「自然のままに放置した林？」などと思っていたら大変な誤解です。豊かな生態系が維持されている現在の西原自然公園の雑木林があるのは、ボランティアの方々の熱心な活動の成果です。丁寧な作業を続ける中で、テストや検証を繰り返し、自然の力を引き出しているのです。参加された方からは、努力していただいた結果として西原樹林が残されてきたことに感謝し、機会があったら活動に参加したいとの声が寄せられました。

## 「自分だけの一冊★ブロックメモノートを作ろう～製本体験ワークショップ～」

平成31年3月17日 ひばりが丘図書館 講座室

講師 古川 恵美子さん(本づくり学校認定講師)

YA世代を対象に、ブロックメモノートブック作りを行いました。製本技術を学ぶとともに、自分たちで選んだ色のブロックメモや布を使って、本格的な製本工程を体験しました。

一つ一つの工程をていねいに仕上げていきます。



背のしっかりとしたハードカバーのノートが完成☆

西東京市保谷駅前図書館開館十周年記念事業

## 「廃物利用など奇抜な素材の美しい手作り本」

平成31年3月24日 保谷駅前公民館 集会室

講師 大貫 伸樹さん(西東京市在住・ブックデザイナー&装丁研究家)



大貫氏が長年研究されている明治の装丁家・斎藤昌三について、自身がコレクションしている奇抜で珍しい貴重な本を紹介しながら語っていただきました。

受講者からは、「こんな貴重で珍しい本を実際に見て触ることができて良かった」や「装丁の話の直に聞くことが出来て大変ためになった」などの感想がありました。

大貫氏コレクション

# 小さなアーティスト



「春色のハンカチ」  
～春の花だん～  
保谷第二小学校 4年



「手のひらに」  
～大すきな物なんだろう～  
保谷第二小学校 3年

図書館のカウンターに置かれた講座案内をジッと見つめる私。

《西東京市図書館 大人のための連続講座 一寺子屋式古文書手習い～かな読みに始まり冊子を読み上げるまで～ 講師 吉田豊氏》

古文書って何かしら？寺子屋式ってどういうこと？何もわからないので見ていただけなのに…。「どうぞお持ち下さい。」と優しく声をかけられチラシを持ち帰ったことが、私と古文書との出会いでした。

吉田先生の御指導方法、先生御自身の魅力に導かれ古文書学習がスタートしました。わからないからおもしろい。むずかしいからおもしろい。昔の人の書いた文章が読めるだけで嬉しい、楽しい。解説することで広がる世界。今までとは違う観点から江戸の歴史や地理に興味が出てきます。

利用者エッセイ

## わたしと 図書館

さか い かず こ  
酒井 和子

あの日から7年。講座終了後始めた、有志による古文書サークルは、今もずっと続いています。月に2度、先生プラス生徒7名。毎回ほぼ全員出席です。教材は先生所有の本から始まり、最近では図書館所蔵の『江戸時代庶民文庫』『江戸時代女性文庫』なども読んでいます。

文化7(1810)年発行の『旅行用心集』これは旅に際しての心得について書かれたものですが、今にも通じる事柄がいくつもあり、昔も今も変わらないと実感します。

私は『東海道中膝栗毛』の原本が手に入ったこともあり、昨年、旧東海道を一人で全踏破しました。古文書があれば私の老後は退屈知らずです。

古文書を楽しむ喜びのきっかけをくれた図書館は、私にとって文字通り新しい世界への窓だったのです。